

新年にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
会長 新 芝 宏 之 CMA



新年おめでとうございます。2021年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、既存の秩序が根底から揺るがされた激動の年となりました。困難な状況でしたが、見方を変えれば次の時代へ時計の針を早めたと言えるのかもしれませんが。歴史を振り返れば、世の中は戦争や大きな自然災害、感染症を機に大きく変わってきました。今回のパンデミックも、後に新たな時代の転換点であったと捉えられるでしょう。

かつての日本経済の大いなる発展の要因として、戦後の米ソ冷戦下における日本の地政学的な位置付けがあったと考えます。しかし、ベルリンの壁が崩壊し、日経平均株価が史上最高値を付けた後に低迷、日本経済の様相も大きく変わり、戦後作られてきたあらゆる構造が変容しました。翻って、今起こっている米中の新冷戦は、単なる覇権争いにとどまらず、世界に分断をもたらすなど旧秩序を破壊しつつあります。1980年代以降に加速したグローバリゼーションが見直され、さらには自由と民主主義すら揺れ動いていると感じています。

他方で、近年、中長期的に企業価値を高めるサステナブル経営の重要性が認識されるなど潮流に変化を感じます。過度な短期利益の追求や格差拡大、環境問題などを背景に「株主至上主義」は見直しを迫られており、従業員や顧客、社会などにも配慮した「ステークホルダー資本主義」が浸透しつつあります。企業は単に利益を追求するだけでなく、利益の「質」も求められ、非財務的要素の重要性が高まっています。長らく続いた従来の資本主義は「グレート・リセット」が避けられず、新たな社会経済システムを求める機運が高まっています。こうした歴史的なパラダイムシフトの中で、格差や分断をより一層深刻化させた今回のコロナ禍は、時代の変曲点の象徴であるように感じます。多くの企業が業績悪化を余儀なくされる一方で、環境変化を捉えて最高益を実現する企業があり、今後、牽引役企業の交代があるでしょう。昨年、テスラの時価総額が日系自動車メーカー全社の合計を上回るまで急拡大したことが大きな話題となりました。時代に取り残される危機感が強まる一方で、機会も大いに広がり、変化への対応力が求められています。

昨年は大規模金融緩和に支えられた結果、米国主要株価指数は史上最高値を更新し、わが国でも日経平均株価が約30年ぶりの高値を付けました。3年前に吹き上げるように高騰した後に急落した暗号資産も急速に値を戻しました。実体経済から乖離した動きには不安定な様相が強まっていると感じます。他方、米国のロビンフッドはミレニアル世代を中心に取引が急増しムーブメントとなりました。わが国でも老後資金不足問題や制度面の整備を追い風に投資家のすそ野が拡大しており、若い世代の萌芽を感じています。

外部環境が大きく変化する中、証券アナリストはどのような役割が求められているのでしょうか。先行きの不確実性が高まる状況においては、情報提供の重要性が一層高まると考えます。今後、企業間の優勝劣敗がさらに進むことが予想され、証券アナリストは改めて「選別」、「選択」という本来の役割がより一層求められると感じています。これは手数料の低下圧力や手数料体系の多様化などにより金融ビジネスのあり方が大きく変容する中においても認められる「付加価値」であると考えます。また、企業統治改革が進展し、持続的成長の実現が求められる潮流の中では、証券アナリストは企業価値の評価にとどまらず、中長期的な企業価値向上への貢献や、企業と投資家の建設的な対話における橋渡し役という役割も期待されています。まさに証券アナリストの真価が問われる時代が訪れているように感じます。

当協会は、時代の要請に応じた金融・投資のプロフェッショナルを育成し、それを通じて日本経済の発展に寄与することを目的としています。証券アナリストを取り巻く環境や求められる役割が大きく変容している状況を踏まえ、今般、当協会の事業目的を新たに「理念、使命、戦略」という形で整理することとしました。これらは、本年から開始する「新CMAプログラム」への移行に合わせて発信する予定です。また、コロナ禍を奇貨として、業務の一層のデジタル化を進め、CMAの皆さまに、より効率的で付加価値の高いサービスを提供できる体制整備を進めます。証券アナリストジャーナルの電子化、IRミーティングやセミナーのオンライン開催、教材のデジタル化なども図ります。当協会は、高度な専門性を維持、向上できるように最新の情報を提供し、高い職業倫理観を保持していただくよう働きかけるとともに、金融・資本市場の健全な発展の促進や持続可能な社会の実現に貢献する対外的な活動を積極的に行ってまいります。

本年の干支は「辛（かのと）丑（うし）」です。「辛」は「万物新生」なる状態を指し、今までとは違った新しい状態へ至るという意味が込められており、「丑」は「紐」に由来し、万物が芽を吹き出そうとするのをつなぎとめる状態を表します。五行思想では「辛」は「金」、「丑」は「土」となり、「金」と「土」は互いが相乗効果で強め合う「相生」の関係です。わが国では昨秋に新政権が誕生し、米国ではいよいよバイデン新政権が始動します。新型コロナウイルス感染症の苦難を乗り越えた先に、新たな時代が訪れる胎動を感じます。

本年の皆さまのご健勝とますますのご発展、一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。